

令和4（2022）年度 障害者支援施設寿波苑事業報告

第1章 総括

1. <概況>

国では、2040年度を見据えた地域共生社会の実現に向けて取り組まれています。各都道府県などの現状及び課題などから、国としては、令和5年度末までに、市町村又は圏域において、相談支援体制の充実・強化等に向け取り組みの実施体制を掲げて取り組んでいます。相談支援体制から重層的なこと、災害まで行っていく、地域づくりが大切になります。地域あつての寿波苑のため、今後も地域ニーズに応えるよう日々精進していきたいと思います。

昨年度も新型コロナウイルス感染対策の1年でありました。令和2年1月16日に国内で初めて感染者を確認したと発表され、令和2年2月1日に新型コロナウイルス感染症とする政令が施行されました。令和2年4月17日に三原市内1発症を受けて、令和2年4月22日に2グループのゾーン分けをした支援体制を継続しています。『施設内に感染症を持ち込まない』ことを最終目標として掲げて取り組んだ中で、お陰様で皆様のご協力をおもちまして、入所利用者の発症はありませんでした。

障害者虐待防止の更なる推進及び身体拘束等の適正化が掲げられ、令和4年度から義務化されました。また、このような中で、残念ながら障害者虐待防止法、障害者福祉施設従事者等による虐待（利用者に対しての精神的虐待）に認定されました。今後は、このような事柄にならないように虐待防止委員会を中心に虐待の未然防止、虐待事案発生時の検証や再発予防策の検討等に努めて参ります。

なお、各事業所の実施状況については、概ね初期の目標を掲げていましたが、短期目標は達成されましたが、年1回の職員個人面談の実施状況、虐待の事案等から長期目標については、残念ながら未達成と考えております。

長期目標（12ヶ月）・短期目標（3～6ヶ月）を掲げて取り組みます。

●**長期目標**：松友福祉会のロゴマークにもあるように、『命を大切にす
る』ことに主眼とする、温かい看護、介護を目指し、地域の
声に応える、信頼できる事業所づくりを目指します。

●**短期目標**：コロナ禍の状況から、赤・青とゾーニングを継続し、一人
ひとりにあつた個別ケア、職員との顔なじみの関係づくり、
感染症など感染リスクの軽減を目指します。

2. <環境整備>

(1) 設備等

- ① オスカー2台（エアーマット体位交換）※国県補助金
- ② パソコン2台 ※国県補助金
- ③ 見守りカメラ1台（コロナの有事用）
- ④ ブルーレイ再生機2台（在宅利用者用）
- ⑤ 1階洗濯室の全自動水洗汚物除去機
- ⑥ 医務室用の給湯器1台更新
- ⑦ 2階共同トイレウォッシュレット2台（利用者からの要望）
- ⑧ オーバーテーブル3台
- ⑨ 公用車ハイエース ※合人社財団補助金
- ⑩ 1階給湯室用、冷蔵庫1台

(①～⑩を整備し、快適性・利便性の向上に努めました。)

(2) 防災訓練

平素より様々な場合を想定し、消防署職員の立ち会いの下、実践的防災訓練（年4回）を実施しました。

令和4年度も引き続き、県のさっそくネット会議、三原市防災部会のメンバーとして、会議に参加しました。いつ災害は起こるか分からない時代ではなく、災害は起こる時代になりました。昨今の状況から、事業所として減災対策は急務であり、非常用・防災用自家発電機（200V高圧タイプ、72時間の約3日分、軽油6,000リットルタイプ）を令和2年度に設置しました。引き続き、減災対策の取り組み、安全な暮らしを確保するための基盤整備に努めてまいります。

(3) 各関係機関

三原市は、平成19年度より障害福祉サービス等を適正かつ円滑に提供するため、事業者、雇用、教育、医療機関等の関係者からなる『三原市地域自立支援協議会』を設置し、地域課題解決のための専門部会を目的別に開催し協議を重ねています。福祉・介護人材確保等総合支援、毎月、防災部会のメンバーとして参加しています。

(4) 苦情対応

令和4年度 1件（前年度1件）

内容：在宅利用者の服薬支援

苦情申出窓口については、利用者自治会役員と連携を密にし、適切に対応する体制整備に努めております。

(5) 実習生受け入れ状況

令和3年度 4人

↓

令和4年度 1人 広島国際大学リハビリテーション学科 1人

※新型コロナウイルス対策のため受け入れ制限有り

- (6) ボランティアの状況
令和4年度 0人 ※新型コロナウイルス感染対策のため受け入れ中止
- (7) 利用者支援の取り組み
新型コロナウイルス感染対策のため外出の自粛、行事など自粛しています。
- (8) 資格取得者（行動計画：資格取得に向けての支援体制の整備）
令和4年度 1人（介護福祉士1人）
- (9) 虐待防止委員会及びハラスメント防止委員会の進捗状況
令和2年度から委員会発足し、館内に意見箱を2箇所設置し、委員会は2カ月毎に実施しました。

<虐待防止委員会>

各部署（事務、相談・看護・介護・給食）が年度目標を掲げて取り組みました。また、強化月間、啓発ポスターを設け注意喚起、職員個々の意識づけに繋がりました。

利用者及び職員を対象に年1回虐待アンケートを実施しました。マニュアル整備を進める中で、事例を通して振り返りする大切さを学ぶ事ができました。今後も職員個々の意識づけが必要であり、定期的に注意喚起を行い、不適切なケアについて深く考える機会に繋がりました。

<ハラスメント防止委員会>

職員を対象に年1回アンケートを実施しました。
個人の要望、例えば、愚痴が多く、本来のハラスメントから外れているケースも多くありましたが、職員個々の想いを受け止め対応、話し合いを重ね、少しでも解消できるように取り組みました。
また、利用者や家族に対してハラスメント行為の禁止について理解してもらうためにも、入所の契約の時点での説明と契約違反時の対応についても説明をしておくことが必要ではないのか等意見がありました。
職員同士、人間関係での悩みなどについて、深く考える機会に繋がりました。

第2章 社会的支援（相談部門）

目標：『ものごとは丁寧に、人には親切に、真摯に向き合い、真摯に受け止め、真摯に対応をします。』

1. <入所利用状況>

令和5年3月31日現在の三原市内の入所利用者は58人中19人、三原尾道保健福祉圏域（三原市・尾道市・世羅町）では43人が利用されています。（表1）

利用者の障害等の状況は中途障害が86%を占めています。（表2）

平均年齢は60.7歳（昨年度61.5歳）（表3-1）、開所1年目の平均年齢は51.9歳であり、着実に高齢化に伴い重度化が進展しています。（表3-2）

令和4年度の入所は8件（昨年度4件）・退所8件（昨年度7件）です。（表4）

また、令和4年度末現在の待機者は9人（昨年度9人）です。病院からの入所利用するケースが多く、特に昨今であれば、病院より早期退院・転院するケースでの入所相談が多くなっています。

2. <在宅利用状況>

ショートステイの利用は前年度の105件から117件と利用対象者は増となり、延日数は609日から770日と増なりました。（表5）ショートステイの利用状況は、新型コロナウイルス感染症の影響から自粛や利用の制限などによる影響があります。なお、定期的な短期間（1泊2日程度）の利用又は家族の介護力低下、レスパイト（休息）形態となっています。

また、生活介護事業は86件から77件、延べ日数は350日から305日と減になりました。（表6）

在宅利用者の状況から、身近で利用しやすい施設づくり、地域の福祉ニーズに合致した経営及び運営が、より一層必要となります。

3. <相談状況及び相談支援体制>

障害者総合支援法（平成25年4月）により、地域で暮らせるサービスの仕組み、更なる相談支援体制の充実が必要とされています。その中で、当施設においても平成24年4月から特定相談支援事業所の指定を受け、相談支援体制の強化に向けて取り組んでおります。

◎相談件数46件（昨年度35件）、月平均4件（昨年度3件）

近年の相談状況は、病院からの施設利用の相談件数が多く、また、地域生活（在宅生活）を対象とした相談支援業務が増加しています。

◎三原市内相談支援事業所15箇所（昨年度15箇所）

幅広い障害者の生活支援ニーズに対応すべく、日中サービスの充実を図るため、利用者の送迎対応及び各関係機関・家族等との連携を密に図っています。

今後も更に地域における相談支援機関及び各関係機関との連携が必要不可欠であり、地域福祉の生活支援の動向に注視する必要があります。

支援機関別在籍者状況（表1）

R5. 3. 31

市 福 祉		男	女	計	県 内 町		男	女	計
広 島 市	西	0	0	0	大崎上島町		2	0	2
	安佐北	0	0	0	世羅町		1	2	3
	安佐南	0	0	0	県内町 計 (B)		3	2	5
	安芸								
	佐伯								
	小計	0	0	0					
呉市	1	3	4						
竹原市	1	2	3						
三原市	13	6	19						
尾道市	15	6	21						
福山市	2	1	3						
府中市	0	0	0	愛媛県		0	1	1	
三次市	0	0	0	兵庫県		1	0	1	
庄原市	0	0	0	山口県		0	0	0	
東広島市	1	0	1	県外計 (C)		1	1	2	
市 計 (A)	33	18	51	合計 (D=A+B+C)		37	21	58	

障害等の状況（表2）

R5.3.31

	障害等級	脳性マヒ	脳血管障害	脊髄損傷		リウマチ	頭部外傷	運動ニューロン疾患	難病	その他	療育	精神	小計	合計
				胸髄損傷	頸髄損傷									
男性	1級	1	5		4		1			7	3		21	36
	2級		5				1			1	1	2	10	
	3級	1	1							1			3	
	4級						1						1	
	療育										1		1	
女性	1級	4	1		1					4	3	1	14	21
	2級	1	1							1	2		5	
	3級	1											1	
	療育									1			1	
計		8	13		5		3			13	10	5		57

年齢構成（表3-1）

	25~29才	30~34才	35~39才	40~44才	45~49才	50~54才	55~59才	60~64才	65~69才	70才以上	計	最年長	最年少	平均
男性	0	0	1	2	2	3	4	10	4	11	37	77	37	61.9
女性	0	0	0	1	3	3	7	0	2	5	21	73	44	58.6
計	0	0	1	3	5	6	11	10	6	16	58	77	37	60.7

障害支援区分（表3-2）

障害支援区分	6（重 度）	31人
	5（重 度）	15人
	4（中 度）	6人
	3（中 度）	6人
	2（軽 度）	0人
	1（軽 度）	0人
合 計		58人

障害支援区分 <平均5.2>
<昨年：平均5.3>

入退所状況（表4）

区 分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
入 所	市福祉	1	1	1				1	2		1			7
	町 村								1					1
	県 外													
	計	1	1	1				1	3		1			8
退 所	市福祉	1	1			3			1	1		1	1	8
	町 村													
	県 外													
	計	1	1			3			1	1		1		8
入所人員（初日）		59	58	59	59	59	56	56	59	59	58	59	58	
短期入所（ショートステイ）		10	9	11	9	7	14	12	9	9	9	9	9	合計117件

短期入所（ショートステイ）利用状況 平成15年度～（表5）

年度	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	計
件数	69	73	71	74	63	72	95	83	104	99	99	118	126	117	103	158	168	116	105	117	2030
延日数	515	501	615	759	579	380	510	492	466	485	561	779	848	873	682	981	873	690	609	770	12968

生活介護事業・日中一時支援（日帰り）利用状況（表6）

＜生活介護事業＞			
令和3年度	件数	86件	→ 令和4年度 件数 77件
	延日数	350日	延日数 305日
＜日中一時支援＞			
令和3年度	件数	10件	→ 令和4年度 件数 12件
	延日数	31日	→ 延日数 45日

【 在宅利用者利用総数 】

＜ 短期入所（ショートステイ）・生活介護事業・日中一時支援 ＞

令和3年度	件数	201件	→ 令和4年度 件数 206件
〃	延日数	990日	→ 〃 延日数 1120日

第3章 生活支援（介護部門）

目標：『心地良い暮らしの提供』

1. 安心・安全な介護

- ・安心・安全な介護を目指し基本的な感染防止対策の徹底を行いました。
- ・利用者の新型コロナ感染はなく、日々の活動を行うことができました。
- ・各部署との連携を図り、備品の確認、対応方法の研修を繰り返し行いました。

2. 機能維持

活動に制限はありましたが、クラブ活動や日中支援活動を楽しみながら機能維持できるよう工夫しました。

3. 寄り添いの支援

利用者の意志を尊重し、心地良い暮らしが送れるよう支援しました。

4. リスク防止

ヒヤリ・ハットの事例を整理・検討し、リスク防止に努めました。

○アクシデント 令和4年度 0件（前年度 1件）

○インシデント	令和4年度	30件	(前年度 22件)
○本人の不注意	令和4年度	4件	(前年度 7件)
○本人の行為	令和4年度	16件	(前年度 40件)
○介護上のうっかり	令和4年度	14件	(前年度 6件)
やむを得ず身体拘束の必用な利用者		2名	

第4章 医療・保健衛生（看護部門）

目標：看 護 『体調管理と健康維持』
リハビリ 『日常生活に沿ったリハビリに努めます。』

1. <健康管理、異常の早期発見・早期治療>

施設看護の最も重要な仕事である健康管理と異常の早期発見・早期治療を達成するために、バイタルサインのチェックをはじめ健康診断・定期検査の実施、異常時には本人・家族等とインフォームドコンセントの下、適切な医療を行いました。

2. <重度化への対応>

この一年、定期的に入院治療を必要とするケースがありました。（表7）慢性疾患やその急性増悪のため、適切な対応を怠ると重症化すると思われるケースも多くありました。

また、嚥下障害による経管栄養者15人（昨年度18人）、在宅酸素療法者15人（昨年度16人）と利用者の医療・保健ニーズは高いままです。これらの対応については主治医の診察・指示に基づいて受診し、協力病院と主治医相互の連携で精密検査や処置・他科への紹介を行い、迅速かつ適切な対応に努めました。

外来受診状況は、（表8）の通りとなっています。

3. <感染症予防>

感染症予防について、新型コロナウイルス予防対策として2回のワクチン接種を実施、またインフルエンザは流行前ワクチン接種を行いました。玄関に非接触体温計、マスク及び手指消毒を設置しました。

また、毎朝、夕、全館窓を開けての換気等マニュアルに従って対応し感染症の発症等を防ぐことができました。

4. <リハビリ>

リハビリについては、個々のリハビリテーション計画を作成し、実施・モニタリングを行い、作業療法士（OT）による利用者との対話を取り入れ、呼吸器リハビリを含め個別のリハビリを実施しています。（表9）

今年度はコロナ対策の為、集団リハビリは実施していません。

また、看護・介護と連携し、利用者の状態にあったポジショニングを随時考え快適性の向上及び拘縮予防に努めました。

今後も利用者の日常生活に沿ったりハビリを実施していけるよう努めてまいります。

5. <専門知識・技術の向上への取り組み>

利用者の健康と生活の質を高めるためにも、保健衛生の知識や技術向上の必要性が強く求められています。そのために必要な知識・技術の研修や研鑽を重ね、利用者のニーズに応え、安心して健康で快適な生活ができるよう今後も努めてまいります。

入院状況（表7）

肺炎・嚥下性肺炎	18件	検査目的	3件
胃瘻経鼻チューブ交換	12件	その他	17件

入院先（転院含む）

松尾内科病院	43件	三原赤十字病院	2件
公立みつぎ総合病院	0件	因島医師会病院	1件
須波宗斉会病院	0件	三原医師会病院	1件
三原城町病院	0件	興生総合病院	1件
尾道総合病院	2件	小泉病院	0件

令和2年度（56件） → 令和3年度（66件） → 令和4年度（50件）

外来診療状況（表8）（単位 件）

診療科	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
眼科	1				0	12
整形外科	9	5	7	6	5	8
歯科	164	192	202	35	70	160
皮膚科	5	26	22	10	7	18
内科	36	23	28	27	33	59
泌尿器科	10	15	5	12	10	11
耳鼻科	7	10	8	1	4	2
婦人科	2					
精神科	16	17	17	28	41	38
リハビリ						
外科	5	16	7	3	3	7
循環器	1					1
神経内科						
その他	8	5	6	2	6	3
合計	264	309	302	124	179	319

リハビリ実施状況（表9）

（ ）内は在宅利用者

実施月	OT
4月	156(0)
5月	147(1)
6月	189(2)
7月	184(2)
8月	170(0)
9月	185(2)
10月	198(2)
11月	195(1)
12月	181(0)
1月	183(0)
2月	179(1)
3月	134(2)
合計	2,101(13)

第5章 食事（給食部門）

目標：『安心・安全な食事を提供できるよう取り組みます』

1 <栄養ケアマネジメント>

栄養状態のスクリーニングを行い、アセスメント、栄養ケア計画を各部署と連携を図り作成し、実施、モニタリングを行い、適切な栄養補給であるか、確認を行いました。不食者へは個別対応にて食事摂取量の増加に努めて参りました。

栄養リスク（R5年.3.31現在）

低リスク	32名
中リスク	24名
高リスク	2名

療養食種（R5年.3.31現在）

腎心臓病食	20名	胃潰瘍食	9名
糖尿病食	17名	脂質異常症食	5名
肝臓病食	4名	膵臓病食	1名
常食	2名		

食器用具（R5年.3.31現在）

箸	1名	スプーン	11名
箸、スプーン	15名	新スプーン	7名
スプーン、フォーク	6名		
介助用（スプーン、フォーク）	6名	介助用食器	4名

食事形態（R5年.3.31現在）

普通食	8名	普通食（2cmカット）	24名
ソフト食	9名	ミキサー食	4名
ゼリー食	1名	経管栄養食	12名

2 <給食会議の運営>

利用者へ食事についての意見や要望を聞くため、毎月1回利用者参加による給食会議の運営を継続して行いました。最近では以前に比べて利用者の方からの食事についての意見や要望がなかなかあがってきません。そのため、給食会議では利用者の方が食べたい料理などを聴くことが多くなっている状況です。

3 <嗜好調査の実施>

利用者の嗜好、ニーズの把握、コミュニケーションを図ることを目的に令和4年9月に厨房スタッフによる嗜好調査を実施しました。利用者とは直接話すことにより様々な意見をいただき、利用者の食事に対する思いを再確認できました。嗜好調査結果をもとに利用者からの要望に沿った料理の提供にも努めてまいりました。

4 <行事食・選択献立の実施>

行事食では毎月の誕生会、選択献立、ハーフ食等で季節感のある給食の提供に努めてまいりました。コロナ感染症予防のため、食堂にてグループごとのグルメ会の開催になりましたが、利用者には大変好評でした。

選択献立は月に1～2回、利用者の要望を取り入れながら、食事を選ぶ喜び、食事を楽しんで頂く事を心掛けて実施しました。また、月に1回程度ハーフ食も実施しました。毎回好評である、キャベツ、レタス、大根のお代わり食も継続して行いました。

年間活動報告

※毎月カフェ（5回）、誕生会、お代わり食、選択献立、ハーフ食は実施

4月		10月	日中活動（パンケーキ）
5月	節句 にぎり寿司	11月	海鮮丼
6月	日中活動（焼きカレーパン）	12月	クリスマスメニュー
7月	七夕そうめん 天ぷら盛り合わせ	1月	お屠蘇 甘酒 抹茶会 七草 鏡開き（ぜんざい）
8月		2月	節分（巻き寿司、節分豆） 日中活動（プリンアラモード） グルメ会（おでん）

9月	彼岸 お楽しみ給食（かき揚げ）	3月	ひな祭り 彼岸 グルメ会（すき焼き）
----	--------------------	----	-----------------------

5 <誤嚥防止>

近年は障害の重度化が進み、利用者のADLも低下傾向にあり、自助具や食器の工夫が必要であり、また誤嚥防止の為、喫食時の体位や食事の形態について、より注意が必要な利用者が増加しています。介助皿を使用して食事をされる利用者も増えていきます。食事でも、安全にかつおいしく食べて頂けるよう、ソフト食、ミキサー食、ゼリー食の提供も継続して行いました。

また、慢性疾患も多いため、栄養のバランス等においても、医師の指示に基づき、個々の健康管理に努めました。

6 <衛生管理>

衛生管理については、『衛生管理マニュアル』に準じた対策を実施すると共に、電解水による徹底した除菌洗浄により、安全安心な食事の提供を実施しております。

厨房内の清掃作業では、より確実に出来るよう職員全員で取り組み、作業しやすい環境整備と衛生意識の向上につながっております。利用者個々のニーズの把握、献立等の見直し・変更を行うことにより利用者に喜ばれる食事の提供に努めて参りました。

令和4年度 年間活動報告

	研 修 会 等	生 活 行 事	そ の 他
4月	防災訓練（初期消火、車いす訓練） 担当：谷口SW	誕生会 蛭子神社分社 お花見会 外出行事・館内行事は中止 （コロナ禍のため中止）	ショッピング （コロナ禍のため今年度も全て中止 利用者ゾーニング継続中）
5月	研修 『クレーム対応』 担当：岩永、網干	誕生会 害虫駆除 ワックス清掃	
6月	研修 『ガウンテクニック』 担当：福本、岩永 『拘縮について』 担当：段林、川西	誕生会	

7月	防災訓練（夜間想定） 担当：網干、酒井、矢野	誕生会 館内ワックス掛け	
8月	研修 『グリーンフカンファレンス 1回目』 担当：岩永	誕生会 物故者供養	
9月	研修 『ハラスメント』 担当：川西、谷口	誕生会	
10月	防災訓練（日中総合訓練） 担当：山科美、宗永、溝口	誕生会 お楽しみ会 須波観音法要	
11月	研修 『虐待防止委員会による研 修、課題事例を個人ワー ク、グループワーク 担当：網干 普通救命講習 担当：西村	誕生会 普通救命講習 業者外窓拭き	
12月	研修 『食事、とろみ』 担当：福本	誕生会 大掃除	
1月	研修 『福祉職員としての 心構え』 担当：谷口	誕生会 新年会 お楽しみ給食 正月行事	
2月	防災訓練（夜間想定訓練） 担当：城平、陰迫、入江	誕生会 お楽しみ給食	
3月	研修『グリーンフカンファレ ンス2回目』 担当：岩永	誕生会 お楽しみ給食	
主なクラブ活動 1回／月		○ 喫茶部 ○ 陶芸部	○ 書道部 ○ 華道部
○ 日中活動（創作的活動など）4～5回／月			
○ 自由外出支援（今年度は全て中止）			